

鶴の湯

Tsurunoyu
(東京都文京区)



外観

今回紹介する銭湯は文京区の鶴の湯。千鳥破風の立派な大江戸銭湯である。

鶴の湯の前は小さな公園になっているので、コインランドリーで洗濯をしながら、公園のベンチでくつろいだり、談笑することも可能だ。

脱衣室は伝統的な番台スタイル。格天井も健在だ。新しいマッサージ椅子もあり、「ボディーコントローラー」なるフィットネスマシンらしき不可解な物体もある。ロッカーは 48 個だ。

浴室はシンプルだ。奥行きがあまりないが間口が広い。洗い場は 22 か所。シャワーブースはない。浴槽は浅風呂、深風呂、薬湯の 3 構成で、浅風呂は 2 つのマッサージ流が出ており、深風呂は気泡風呂とボディーマッサージがある。薬湯はじっこうと思われ、定員は 1 人か 2 人と小さい。サウナ、水風呂はない。

このように書くと平凡な銭湯のように思えるが、驚くべきはペンキ画だ。まずは浴槽上の壁。男湯側は「南伊豆」と記された早川絵師による富士山。女湯側も富士山。さらに、脱衣室側の壁にも巨大な富士山のペンキ画がある。こちらは 2011 年 12 月 24 日に描かれた、中島絵師の作品だ。クリスマスイブにペンキ画を描くとは何という粋な絵師と銭湯だ。

というわけで、鶴の湯には 3 つの富士山のペンキ画がある。鶴の湯の富士山に対するこだわりはペンキ画だけではない。脱衣室には富士山の写真がいくつも飾られている。

富士山が世界遺産に登録されることが決まった時、多くのマスコミから当銭湯愛好会に「富士山のペンキ画がある銭湯は何軒ありますか？」という質問を受けた。ペンキ画は定期的に描き換えられてしまうため、そんな数字を正確に把握している人がいるとは思えな

い。もしこの鶴の湯のことを知っていれば、「鶴の湯の取材をするべし」とアドバイスできたのだが。

さらに、鶴の湯では常連客が個性的だ。七福神の福祿寿神のような風貌の老人。椅子と洗面器をわざわざ一番下から取り出す客。シャワーヘッドからの湯を浴びながら、瞑想する客。様々である。

鶴の湯は10月1日から休業に入るという。その後の営業方針は12月初旬になってから発表するのだそうだ。鶴の湯がこれまで通り元気な姿で戻ってきてほしいと思うのは、当銭湯愛好会だけではあるまい。

- 名称：鶴の湯
- 所在地：東京都文京区千駄木 5-32-2
- 電話：03-3821-2514
- 営業時間：16：00～24：00
- 定休日：土曜日
- 入浴料：大人 450 円、中人（6 歳以上 12 歳未満）180 円、小人（6 歳未満）80 円
- サウナ：なし
- サウナ内のテレビ：なし
- 取材日：2013 年 9 月 27 日（金）
- 取材：銭湯愛好会・東京支部